

交通安全は

「ゆとりと思いやりの心」から

年末年始の交通事故防止

街は人の波、道路は車の「洪水」——。街全体が何となく気ぜわしくなるのが十二月です。その気ぜわしきのなかで、ややもすると、わたしたちは「心のゆとり」を見失いがちです。交通事故防止——ドライバーにとっても、歩行者にとっても大切なのは「心のゆとり」とお互いに相手の立場を尊重する「思いやりの心」です。年末から年始にかけての交通事故を防止するために「ゆとりと思いやりの心」をもって安全運転、安全走行を心掛けましょう。

飲酒運転防止は

「三ない運動」の実践から

年末から年始にかけては「忘年会」や「新年会」などがあり、何かとお酒を飲む機会も多くなります。この時期、ドライバーの方に特に注意してもらいたいのが飲酒運転による事故です。お酒を飲むと、自分では酔っていないと思っても、感覚は麻痺し、素早い判断や行動ができなくなりま



具体的には、前方の人や車の確認が遅れたり、見落としたりするほか、気が大きくなり危険を危険とも思わなくなってしまうなど非常に不安定な心理状態になります。つまり飲酒運転は、交通事故と背中合わせになっているのです。飲酒運転の防止には、ドライバー自身が気をつけるだけでなく、家族、地域、職場ぐるみの注意も

- 必要です。
- そこで、ぜひ次の「三ない運動」を実践してください。
- ▽飲んだら乗らない
- ▽飲るなら飲まない
- ▽乗るなら飲ませない

また、酒類を提供する飲食店経営者の方は、車で来ているお客さんには十分配慮し、酒類は絶対に出さないとか、お酒を飲んだ場合は、車のキーを預かるなどして、真の思いやりで飲酒運転を防止しましょう。

安全運転の励行は

「ゆとり」から

ベスト・ドライバーの条件とは、走行中、特に先を急いでいるようなときでも、はやる気持を抑えて運転できることだと言われている。

年末のあわたたしきのなかで、時間に追われての運転中、ついほかのことを考えたり、わき見運転

するのは大変危険です。ちよつとした心のスキが重大事故を招きます。安全なスピードで、十分な車間距離を保ち、前方の安全を確認し、どんな事態にも対応できるように常に「ゆとり」をもって運転しましょう。

歩行者の安全な横断は自らの手で

歩行者も、年末になると気分的にあわたたしくなり、つい先を急ぐ気持ちから、いきなり道路に飛び出したリ、無理な横断をしたりする光景が目につきます。しかし、車は急に止まれません。急ブレーキを踏んでから車が止まるまでの距離はというと、時速六十キロで約六十メートル必要です。また、時速六十キロでの走行距離は一秒間で約二十メートル。まだ遠くに車がいると思ってもアツという間に近づいてきます。

はやる気持ち、あせる気持ちは歩行者にも禁物です。「自らの安全は自らの手で」を合言葉に、交通事故に遭わないために次のことを実践しましょう。

- ▽横断歩道や歩道橋、横断地下道など、安全に渡れる場所を選んで横断しましょう。
- ▽横断するときは必ず、いったん立ち止まり、安全を確かめ、速やかに渡りましょう。
- ▽駐停車している自動車の間や、渋滞でノロノロ走っている自動車の直前、直後の横断はやめましょう。

かきかけは 家族みんなの合言葉

年末年始防犯運動
12月11日～1月10日

十二月は、空き巣ねらいやひったくり犯の「かせぎ時」です。ポ一ナスのシーズンでもあり、なにかと大金が動き、正月の準備などであわたたしくなり、家をあげることも多くなります。施錠とともに、心の戸締りをお忘れなく。防犯に心がけ、明るい正月を迎えましょう。